

# 法政就業力通信

## ～今月のさんぽ道～

法政大学

産学連携 3D 教育プロジェクト  
<http://3dep.hosei.ac.jp/>産学連携 **3D** 教育プロジェクト

## 産学連携から、産学連続教育へのチャレンジ

**特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)**

今年度の授業も順調にスタートし、新入生もだいぶ大学に慣れてきました。我々のプロジェクトも3年目に入り、この2年間で作り上げてきた成果が着実に形となってきています。私が主担当である教材ビデオについては、2本の新作(専門商社編、一般消費財編)が完成し、まもなく授業でお披露目いたしますが、さらに今年度は新たな制作方式である、「産学連続教育」にも取り組みます。

### 新たな制作方式とは

昨年のニューズレターで掲げた私のキーワードは「協働・コラボレーション」・「産学連携へのチャレンジ」でした。文科省の就業力育成支援事業予算の廃止に伴って考え出した手法で、大学教育に民間企業からの財政的支援を求め、教材ビデオやアセスメントツールの制作・普及を展開するものです。正直なところ苦肉の策でしたが、幸いながら支援していただける企業の協力を取り付けることができ、新作ビデオを完成することができました。

私の頭の中にあったのは、欧米の大学のような民間企業からの資金調達による自立した大学の経営です。丸投げの寄付講座ではなく、小さな試みですが、この方式によって産業界のニーズが自然にくみ取れることもわかりました。

### 略歴

84年成城大学法学部卒。

日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

e-mail:

[ysuzuki@stage41.com](mailto:ysuzuki@stage41.com)

[yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp](mailto:yoshinobu.suzuki.88@hosei.ac.jp)

研究室は新見附校舎2F

### 産学連続教育とは

当初、教材ビデオ作成をご支援いただいた企業の意図は教育CSR的な視点であり、多少の広報活動にもなれば、というものでした。しかし、事例を元にしたシナリオの作成や、自社設備を利用した撮影が進むにつれて、この教材ビデオは、多少の編集をすれば、同社の新人研修や管理職研修、さらにはグローバルに展開する拠点の経営方針の説明(コーポレート・コミュニケーション)にも活用できることがわかってきました。

つまり、大学教育に使われる教材が、そのまま企業内教育にも使えるのです。更に発展させれば、大学の教育ノウハウを企業研修などに向けて逆支援することも可能でしょう。これが産業界のニーズに直結した産学連続教育です。

### さらなる展開へ

こうしたコラボレーションは、教材ビデオにとどまりません。さらに実践的なインターンシップの協働開発、そして産業界のニーズを取り込んだアセスメントツールの開発にも導入でき、大学と産業界が有機的につながります。

新年度早々から、大きな風呂敷を広げているようですが、この2年間かけて十分に煮詰めてきたもので、もはや「夢」ではなく具体的な「目標」です。今年度も学内外の皆様と協働しながら邁進していく所存です。



## インターンシップを学びにどう活かすか？

教授 藤村 博之（ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー）

現在、文部科学省のある委員会では、インターンシップのあり方について議論しています。そもそもインターンシップとは何か、どのようなインターンシップが望ましいのかといった点を検討しています。

インターンシップは、企業や社会の仕組みを知る良い機会です。大学の講義やゼミでは得られない体験ができる場です。しかし、わずか2週間のインターンシップで何がわかるのかという批判もあります。

私は、インターンシップによって自分の未熟さを知り、「もっと勉強しなければ…」と考え、さらに勉学に打ち込むようになるという循環を創り出すことが重要だと思います。ふだんの講義・ゼミとのつながりを意識させることが大切ですね。

略歴 84年名古屋大学大学院卒。  
京都大学博士（経済学）。84～89年  
京都大学経済研究所助手。90～97  
年滋賀大学経済学部助教授・教授。  
97年～03年法政大学経営学部教  
授、04年～IM研究科教授。

## リアクションを大切に！

特任教員 白井 章詞（しらい しょうじ）

先日、学生の保護者さんと一緒に食事をしました。私が出張で地方に来ていることをSNSに書きこんだところ、それを見た帰省中の学生からのお誘いでした。お食事の際、印象的だったことは、「子どもが何を勉強しているのかは、よく分かりません。でも、徐々に会って、元気な顔が見れて、そしてほんの少ししっかりした意見を聞けるようになると、大学に行かせてよかったと思える」というお母さんの言葉でした。もちろん、親として、わが子に身につけて欲しいことは沢山あると思います。ただ、徐々に会うわが子の変化（成長）を、親は本当に楽しみにしていられしやるのだからと痛切に感じました。そうした思いに応えるためにも、授業では「やらせっ放し」「書かせっ放し」を無くし、提出物は素早くフィードバックするように心がけています。そうすることで気づいたこと、それは、私も指導教員からそうやって育てられたということ。気づくのが少し遅かったと反省しています。



略歴 法政大学大学院経営学研究科  
キャリアデザイン学専攻（修士）卒業  
後、法政大学大学院政策創造研究科  
博士後期課程に進学。  
2011年3月、同博士課程中退。

## You are OK. を意識させる

特任教員 有田 五郎（ありた ごろう）

新学期の授業の場で、私語を注意されると「大丈夫です」と答える、帽子をかぶった者は「寝癖をなおすんです」ときた。I am OK. のみを主張する。これが現代学生の問題点だと強く実感した。自分中心いわゆる自己中で、周りへの気配りが出来ない。

こういう態度への道德教育も大学でのキャリア教育の一環として担わざるを得ない。働く力を養う授業で、人間形成にも多くの時間と労力を費やしているのが現状である。

社会が求めるのは「（他者への配慮を持って）自分で考え動ける人材」、それとの隔たりは余りに大きいがこのカッコ書きの部分から固めていかねばと取組んでいる。



略歴 70年慶応義塾大学経済学部卒。  
70～06年伊藤忠商事（株）勤務、06～11  
年帝京大学と法政大学職員。  
11年～法政大学教員

### ◆ 2013 催事販売型インターンシップがキックオフしました

連携7大学から53名の学生が集まり、2013年度前半の「催事販売型インターンシップ」がスタートしました。前回に引き続き、十条銀座商店街で販売を行います。女子が7割なのですが、頼もしい感じの男子が多く、うまくまとまりそうな気配を感じます。前回活躍してくれたメンバーも参加し、経験談を語ったり、プログラムの随所でフォローしてくれたり、オリエンテーションの進行をスムーズにすべく、いい動きをしていました。このインターンシップを終える頃には新しいメンバーのみなさんも彼らのように成長し、その次の回へつなげていって欲しいと期待しています。

### ◆ 編集後記

先日女子高PTAの方々から大学見学に来校されました。30分ばかり大学状況を説明させていただきましたが、例年を超える70名以上の方が来校され、大学に対する関心の高さが窺い知れます。近年保護者の方の大学への関心は高まるばかりで、保護者対象のオープンキャンパスを開催する大学もあるそうです。ある調査では大学選択時に親の意見に従うという子供が45%近くいるそうです。さらに就職セミナーに保護者が来場というのも普通の風景になってきました。「大学生にもなって親に世話になるなんて」というのは遠い昔の話。今や進学でも就職でも保護者へのフォローが重要な時代になりました。

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクト（事務局：学務部教育支援課）

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3Dep.hosei.ac.jp/>